神奈川大学生涯学習　エクステンション講座【2017 年後期】

本講座は神奈川大学と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。

2017 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座　≪講義録 3 限目≫

≪講座のメインテーマ≫
防災の最新知見と、
地域防災実践事例を学ぶ

記録：講座協力委員　佐藤忠文

◆開催月日：2017 年10 月 26 日（木）13:30～17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

進行：早川雅子さん

◆本日のテーマ◆　避難所運営のポイントを学び、実体験者の生の声を聞く

・前半：クロスロードゲームを通じて避難所運営に特化した「気づく」を目的に学ぶ

講師：白田　克雄氏（元　南区　六ッ川地区連合町内会　防災部長）

中村　俊光氏（(株)ナカツ防災企画　社長）

・後半：神戸市立鷹取中学校での避難所運営体験の生の声を聞く

講師：近藤　豊宣氏（元・神戸市立鷹取中学校　校長）

講師：中村俊光氏

前　半《防災減災について考えよう
クロスロードから避難所運営を学ぶ》

「クロスロード」とは「十字路」「岐路」「分かれ道」

◇６グループに分かれ自分自身で二者選択の設問に「ＹＥＳ」「NO」で判断

◇ゲームを通じて避難所に特化した「気づく」を目的に学ぶ

◇自分とは異なる意見・価値観の存在への気づきも得る

設問・避難所　帰宅困難者をどうする？

・避難所　今ある食料をどうする？

など５問で意見交換

講師：白田克雄氏

後　半≪阪神淡路大震災　神戸市立鷹取中学校での運営体験の生の声を聴く≫

～人々を救ったのは、人の心～　大震災を乗り越えた生徒・親・教職員たち

●阪神・淡路大震災　家を失い行き場を失った人３２万人（市の体育館・３６０学校園）
鷹取中学校が最大級の避難所　避難者：4,689 名　期間：２３０日間

●避難所運営体制
- 当初：教師 49 名中学校に来れた６名と生徒 417 名中１０数名で避難所運営開始
- 避難所運営グループ（避難者主体）と学校再開グループ（教師主体）の協働

●いろいろな問題発生
- 差別で困った：社会的に弱い高齢者や心身障害者、外国人労働者への対応
- 食料で困った：１日に１回の食料（１人１個は渡せない）　などなど

●大震災が残したもの
- 「思いやりとやさしさ」：どんな人がどんな思いで避難してきたか、その思いを大切に。
- 「絆」：家族の大切さ（父が命をかけて家族を救う）。地域の大切さ（自分でできることをやる）。

講師：近藤豊宣氏

【第３回アイスブレーク】：田中　喜世美さん

災害時のケガ・病気は緊急度・重症度に応じた医療機関へ！

横浜市は
- 診療が受けられる病院・診療所は「診療中」黄色の旗が目印
- 薬を出すことができる薬局は「開局中」黄色の旗が目印

≪まとめ≫

災害時、避難所にはいろいろな意見・価値観が異なる人が集まる。
気づき・思いやり・やさしさが大切！

≪感　謝≫

話を伺って感動、胸がいっぱい。
実体験した先生の心にしみるお話に感謝！